

会場に響きわたる歌声 NHKのだ自慢



▲チャンピオントロフィーの授与

2月10日、NHKのだ自慢が総合体育館で開催され、多くの人が出場者の歌やパフォーマンスを楽しみました。

出場した20組がステージに上がると、観客らは大きな拍手と笑顔で迎え、出場者にエールを送り、歌唱中は手作りのうちわや横断幕で応援しました。

歌手である絢香さんの曲「三日月」を歌い優勝した緒方麻由さんは、「お父さんに届けよう」と思っ一心不乱に歌いました」と話し、ゲストの八代亜紀さん、鳥羽一郎さんと共に喜びを分かち合いました。

歴史あるひな人形が勢ぞろい やつしろのお雛祭り



▲華やかなひな人形に見入る親子

2月9日、第17回城下町「やつしろ」のお雛祭りと第10回ひな祭りが開幕しました。各会場にはさまざまなひな人形やひな道具が展示され、訪れた人たちの目を惹きました。

初日は、本町2丁目アーケードで第17回城下町「やつしろ」のお雛祭りのオープニングが行われ、八代白百合学園高等学校吹奏部の演奏や夕葉保育園の園児による太鼓の披露がありました。また、日奈久温泉街一帯で行われた第10回ひなぐ雛祭りでは、日奈久に舞い降りた日奈久かぐや姫を迎える「雛迎えの儀」があり、行列が市内を練り歩きました。

夢に向かって頑張って 豊かな心をはぐくむための講演会



▲真剣に聞き入る児童たち

2月8日、植柳小学校で「豊かな心を育むための講演会」が開催され、中尾有紗さんが「夢への挑戦」と題して講演を行いました。

中尾さんは日本陸上競技選手権大会の三段跳びで優勝経験のある選手でしたが、事故により車いすでの生活となりました。現在は東京パラリンピック出場を目指し、夢に向かって挑戦し続けています。講演の中で中尾さんが「人との出会いを大切に、夢に向かって頑張ってください」と話すと、児童を代表して平松尊さん（5年）と竹下陽菜さん（5年）は「家族や友達を大切にしていきたい」と抱負を述べました。

泉のユズを使ったアイスクリーム 新商品「柚子の泉」アイス発売



▲おいしくできました

2月20日、食品計画の岩崎直顧問と九州産業大学の米満宗明教授、森みゆきさん、有吉京香さんが市役所鏡支所を訪れ、産学官連携で開発に取り組んだアイスクリーム「柚子の泉」の発売を中村博生市長に報告しました。

今回新たに発売される商品は、泉町産の完熟した黄ユズと香りの強い青ユズを丸ごと使ったアイスクリームです。レシピを開発した森さんは「ユズの味を出す配合が難しかったが、納得のいく商品になった」、カップのデザインを担当した有吉さんは「商品の顔なので目立つようにした」と柚子の泉への思いを語りました。

地域の農地と農業を守る 「農事組合法人平和」設立



▲農事組合法人平和設立総会に出席した皆さん

本市の南西部に位置し、八代海に接する平和地区で、地域農業の担い手として発展していくため「農事組合法人平和」が設立され、2月20日、構成員農家と関係者約30人が集まり、ホテル大黒屋で設立総会が開かれました。

同地区は地域で集落営農組織を立ち上げ、農地を集積することで地域農業の存続・発展を図る「農地集積加速化事業」の重点地区に平成25年に指定されました。

組員らは「小さな一歩が10年後には大きな一歩になるよう、一致団結して頑張っていきたい」と意気込みました。

男女共同参画をめざして いっそDEフェスタ2019



▲高校生による男女共同参画についての劇

2月17日、やつしろハーモニーホールでいっそDEフェスタが行われました。

講演会では、落語家の春風亭鹿の子さんが「笑顔がもたらす素晴らしい働き方と生活」落語で伝えるワーク・ライフ・バランス」と題して講演。仕事と子育ての両立について自身の体験を話し、笑顔と感謝の言葉がけの大切さを伝えました。後半には古典落語や踊りの披露もあり、会場は笑いに包まれました。

また、高校生から見た男女共同参画についての劇やハンドメイド品の販売、親子で楽しむ忍者修行などがあり、多くの人でにぎわいました。



思いやりのある行動をたたえる 平成30年度八代市善行児童生徒表彰式



▲表彰を受けた児童生徒たち

3月1日、厚生会館で平成30年度八代市善行児童生徒表彰式が行われ、市内小中学校の5団体、個人13人が表彰を受けました。

これは、市内小中学校の児童生徒を対象に、社会奉仕活動や突発的な事故に対する人命救助を行うなど、模範となる自発的な活動を表彰するものです。

今年度ほぼ毎朝、学校正門周辺のボランティア清掃活動に率先して取り組んでいる本田寧央さん（有佐小6年）は「これからは清掃活動だけでなく、あいさつも気にかけて行っていきたい」と笑顔で話しました。

欧州の生活様式を学びおもてなし 外国人おもてなしセミナー



▲おもてなしを学ぶ参加者

2月27日、県南広域本部で県南地域の飲食・宿泊、観光関係事業者向けのセミナーが開催され、約50人が参加しました。

これは、今年女子ハンドボール世界選手権大会やラグビーワールドカップが熊本で開催されることで選手や観客、報道関係者など多くの来訪者が予想されるため、同スポーツが盛んな欧州からの観光客をおもてなしする方法を学ぶために開催されました。講師の下村薫さんが「顔を見て笑顔であいさつをする、西洋では猫舌の人が多い」など欧州の生活様式を話すと、参加者は熱心に耳を傾けました。

遠隔授業で楽しく英語を学ぶ 泉小学校・泉第八小学校で本市初の試み



▲同時に英語の授業を受ける泉小学校と泉第八小学校（テレビ画面）の児童

2月27日、泉小学校と泉第八小学校で遠隔授業システムを活用した遠隔授業が行われ、両校の6年生がテレビ画面をとおして英語の授業を受けました。

このシステムは両校の交流学習と小中一貫・連携教育を推進するため整備されたもので、本市では初の試みです。泉小学校から約40km離れた泉第八小学校までをインターネット回線をつなぎ、双方向型の授業が始まると、児童はお互いをテレビ画面で確認しながら、先生から出される問題に答えたり児童同士英語で会話したりするなど楽しく学習しました。

即日完売する人気ぶり 高校生が柑橘を使ったスイーツを開発



▲開店と同時に多くのお客さんが並びました

3月9日、道の駅竜北で「晩白しゅー」、道の駅芦北JAあしきたファーマーズマーケットでこぼんで「ぼんぼんしゅー」が発売されました。

八代農業高校が開発した「晩白しゅー」は、晩白柚が練り込まれた爽やかなクリームが特徴のシュークリームで、芦北高校が開発した「ぼんぼんしゅー」は夕刻の佐敷城をイメージした瓶入りレアチーズケーキです。

店頭販売に参加した八代農業高校2年の寺田瑠音さんと福田恭子さんは「売れ行きが好調でうれしいです」と笑顔で話しました。

八代港に夢を描く やつしろ国際クルーズ拠点サミット



▲パネルディスカッションで発言する中村市長

3月3日、セレクトロイヤル八代でやつしろ国際クルーズ拠点サミットが開催され、経済団体や市民など約500人が参加しました。

平成32年4月には、八代港に旅客ターミナルが完成し供用開始されることから、八代のさらなる発展が期待されています。

中村博生市長、八代商工会議所松木喜一会頭らによるパネルディスカッションでは、「私なら、この一手」と題して、八代の伝統工芸を活用した体験型観光の取り組みや天草・県南地域と連携した観光についてなど多くの意見が出されました。

八代の歴史と石造り文化 めざそう日本遺産講演会



▲各石橋の特徴について話す上塚前館長

3月2日、セレクトロイヤル八代でめざそう日本遺産講演会が行われました。

本市では、「日本最高峰の石工たちが残した石造りのレガシー」をテーマに日本遺産の認定を目指し、文化庁に申請しています。

講演では、市立博物館の鳥津亮二学芸員が八代地域の歴史の特徴を話し、東陽石匠館の上塚尚孝前館長が石橋の魅力と石工の技術の高さを説明しました。参加者らは「八代の歴史が育んだ石造りの文化が日本の近代化に影響を与えたというストーリーは素晴らしい」「ぜひ日本遺産に認定されてほしい」と期待を寄せました。